

有漢の豊かな自然に触れたことが、私の研究の原点

もり けんじ
森 謙治さん

東京大学名誉教授 / 日本学士院会員
/ 東洋合成工業顧問



農芸化学の世界的な科学者

種なしブドウを作るには、ジベレリンという薬品が必要です。この薬品の開発に必要な人工合成を、昭和30年代終わりから9年の歳月を経て、世界で初めて成功したのが森謙治さんです。この合成は、当時の科学技術の水準から鑑みて画期的な出来事で、農芸化学における有機化学合成の実力を世界に知らせた研究成果となりました。

森さんは、農芸化学の世界的な科学者で、ジベレリン開発の他にも、昆虫フェロモンの人工合成の研究論文を世界で最も多く発表され、また、私たちの生活には欠かせない殺虫剤などの研究開発など、数多くの研究、論文を発表されています。

平成4年、農学分野では最高賞である日本農学賞をはじめ、国内および海外で多くの賞を受賞されています。平成27年12月には、日本学士院会員に選定される栄誉に輝かれ、翌年6月には、天皇皇后両陛下へ研究についてお話しもされています。

紹介者 山縣 勝さん(有漢町有漢)

森 謙治さんの主な受賞歴

国内

農芸化学賞(昭和40年)、日本学士院賞(昭和56年)、日本農学賞・読売農学賞(平成4年)、藤原賞(平成10年)、有機合成化学特別賞(平成15年)、瑞宝中綬章(平成22年)

海外

国際化学生態学会賞(1996年)、アメリカ化学会賞(1999年)、チェコ共和国科学アカデミー Sorm Medal(2003年)、イタリア化学会 Chirality Medal(2010年)、アジア太平洋化学生態学会 Life-time Achievement Award in Chemical Ecology(2013年)

プロフィール

昭和20年4月、10歳の時に東京から高梁市有漢町へ引っ越し、有漢国民学校(現・有漢西小学校)・有漢中学校を卒業するまでの少年時代を高梁市有漢町で過ごす。卒業後は、東京都立新宿高校、さらに東京大学を経て、東京大学農学部名誉教授として有機合成化学研究に従事。現在は東京都在任で、海外での講演など、今もなお、多忙な毎日をご過ごされています。

ジベレリンとは？

ジベレリンはある種の植物ホルモンの総称で、生長軸の方向への細胞伸長を促進させたり、種子の発芽促進や休眠打破の促進、老化の抑制に関与します。ジベレリンは農薬として浸漬や噴霧散布などをして、種無しブドウの生産、果実の落下防止、成長促進などに用いられることが多く、こうした操作をジベレリン処理といいます。

高梁偉人列伝

偉人を募集しています

高梁市に関わりがあり、各分野で優れた功績などを残している人・団体などで、市民の皆さんに、ぜひ知ってもらいたい人をご紹介します。

問 秘書政策課 ☎(21)0210